

## 日中国交正常化 45 周年記念に係る中国中山市公式訪問（報告書）

長崎市議会議員 井上 重久

### 11月2日（木）「公式訪問団(12人)福岡空港より出発」！

長崎市議会訪中団（野口達也団長）は、11月2日（木）から5日（日）の3泊4日にかけて日中国交正常化 45 周年記念を機に中国長崎総領事館の要請を受けて、長崎市議会と中山市人民代表大会との交流を図ることを目的に香港経由で中山市を訪問した。11月2日（移動日）は12時に長崎を出発、福岡空港で簡易の出発式を行い、16時25分発のKA381便にて香港に向かう。

現地時間 19 時 25 分（時差マイナス 1 時間）入国手続きを済ませ、専用車で香港市内の夕食会場に向かい、キンバリーホテルチェックインは 22 時 30 分頃となった。訪問団のメンバーは、市議会議員 10 名、議会事務局 1 名、長崎市国際交流員 1 名の計 12 名で中国中山市を訪問した。



出発前の結団式



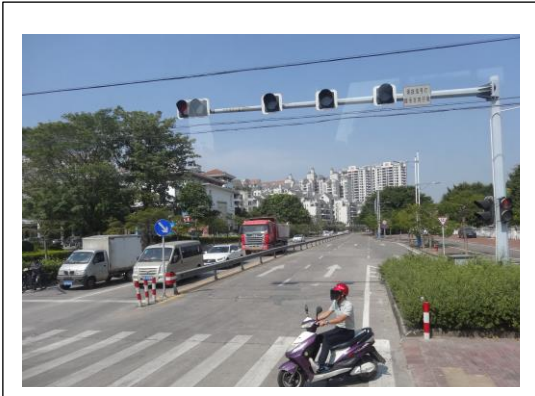
中国中山市中山港のターミナル前

### 11月3日（金）「中山市人民代表大会を表敬訪問」！

11月3日（2日目）は7時のモーニングコールより早目の6時30分起床。持参したタブレットパソコンで「活動の備忘録」を掲載しようとしたが、ウェブサイトが拒否されアップ出来なかった。ホテル出発は8時30分発、8時までにバイキング料理を食し出発の準備を整え、専用車で香港中港城のフェリーターミナルに向った。香港中港城のターミナルで出国手続きを済ませ、フェリーで約1時間30分乗船し中山港に到着、入国手続き後専用車で中山市内に向った。

中山市は、中国の民主革命家である孫文（孫中山）の故郷として知られている。中華人民共和国建国後、中央政府が改革開放政策を進める中、1985年中山市を含む広東省は珠江デルタ沿海開放区の指定を受け、1991年市内にハイテク産業開発区が設置され、外資系企業が市内に進出し、家電、電子部品、自動車部品な

どの生産基地として工業化が進んでいる。



中山市外資系企業がある市街地



広東省の魚料理

市内ホテルレストランで昼食を済ませ、中山市人民代表大会を表敬訪問し歓迎を受けた。歓迎式の出席者は、唐穎（とうえい）氏（中山市人民代表大会常務委員会常務副主任）ほか5名が対応し歓迎の挨拶を受けた。唐穎（とうえい）氏より「中山市人民大会の概要や長崎市と中山市の友好の歴史について、中山市の新興産業（LED照明器具・家電製品など）について、相互訪問の交流経緯を踏まえて友好都市から姉妹都市を目指したい」との説明・挨拶があった。

野口団長（市議会議長）より「孫文は中山市の出身であり、孫文を物心共に支援した梅屋庄吉は長崎市の出身であることから、その歴史的な友情を顕彰し、市民や民間レベルでの交流を促進するため友好都市の提携を行った。主な交流は教育・文化の交流で今後とも子ども達の交流を図って行きたい」との挨拶の後、意見交換が行われた。



中山市人民代表との意見交換



中山市人民代表大会を表敬訪問

## 11月4日(土)中山市「孫文故居記念館を視察」！

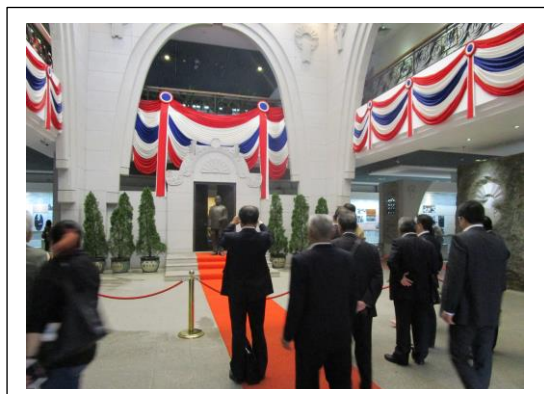
11月4日(3日目)も7時のモーニングコール前に起床、香港同様持参したタブレットパソコンで「活動の備忘録」を掲載しようとしたが、ウェブサイトが拒否されアップすることが出来なかった。朝食はバイキング、8時30分ホテルを出発、専用車で中山市内を車窓から見学しながら辛亥革命の指導者孫文の生誕地「孫文故居記念館」へ向かう。記念館には「中国民主革命の父」とされる関係写真や書籍など展示されていたが、孫文の最大支援者であった長崎市出身の実業家「梅屋庄吉」関係の資料は写真2枚程度しか見当たらず、梅屋庄吉の功績が紹介されていぬ部分では少し残念であった。記念館周辺には、孫文が育った頃の生家や集落が再現され公園化され、中国国内の地方から団体客が訪れていた。



孫文故居記念館前の広場



孫文が育った頃の街並み



孫文故居記念館内の孫文像前



訪問団メンバーにて記念撮影

## 11月4日(土)香港市内「世界新三大夜景香港夜景・市内を視察」！

11月4日(3日目)午後、中山市内のホテルレストランで昼食を済ませ、中山港のフェリーターミナルに向った。中山港での出国手続き、香港中港城での入国手続きを終えて、専用車で車窓から香港市内を見学。途中時間的余裕があったため30分程度、ブルースリーやジャッキーチェンなど有名人の手形がある公園

に立ちより、初日に宿泊したキンバリーホテルにチェックインした。

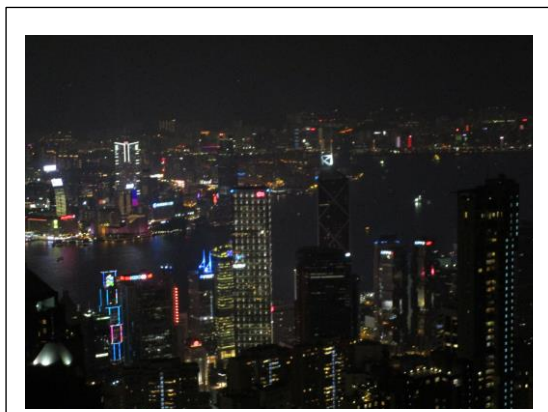


高層ビル前にある香港の公園



映画俳優ブルースリーの像

夕食後、長崎の夜景観光の参考にするため、世界新三大夜景に選ばれている香港のビクトリアピークの視察を行った。ビクトリアピークは、観光・夜景スポットとして人気があるようで、標高約500mの展望台から眺める高層ビル群の夜景は「100万ドルの夜景」とも呼ばれ多くの観光客が訪れていた。稲佐山から眺める長崎の夜景は「生活の灯り」、香港の夜景は高層ビルの「ネオンの灯り」と思いつつ、素晴らしい夜景観光を堪能した。



ビクトリアピークからの夜景、香港の高層ビル群、展望台付近の観光客



## 11月5日(日)移動日「スムーズな行程のなかでトラブル」！

11月5日(最終日)は6時起床、バイキングの朝食を済ませ帰国の準備を整え、8時にキンバリーホテルを出発し香港空港を向かった。ホテルから空港までは約30分、福岡行の飛行機(KA380)は11時5分発の予定。出国手続き後、約1時間程度余裕があったので、空港内の土産品店や免税店を訪問し、長崎への土産を何にするか迷いながら各店に入った。



香港での宿泊先「キンバリーホテル」



香港空港の搭乗口

福岡空港で帰国手続きを済ませ、預けた荷物を待つばかりとなっていたが、貨物コンテナの扉の鍵が開かず約2時間程度待った。順調な行程で交流訪問を終えると思いきや、最後に2時間足止めを食らった。乗り継ぎでなく良かったが、海外の空港でこのようなトラブルが発生すればスケジュールは大いに狂ってしまう。飛行機会社による途中の経過説明が不十分と感じた。



香港市内のレストラン



トラブルに遭遇した福岡空港

## < 所 感 >

11月2日（木）から5日（日）の3泊4日にかけて日中国交正常化45周年を記念し、中国長崎総領事館の要請を受けて、長崎市議会と中山市人民代表大会との交流を図ることを目的に、香港経由中山市人民代表大会を表敬訪問し、唐穎（とうえい）氏（中山市人民代表大会常務委員会常務副主任）ほか5名から応対して頂き、所期の目的は達成できた。

表敬訪問では、唐穎（とうえい）氏より「相互訪問の交流経緯を踏まえて友好都市から姉妹都市を目指したい」、野口団長（市議会議長）より「教育・文化の交流で今後とも子ども達の交流を図って行きたい」とそれぞれの挨拶の後、意見交換が行われた。意見交換では、今後新たにスポーツ交流や観光分野での連携も深めてほしいとの要望も行い、友好都市としての連携を図ることを確認した。

次に、視察の関係では、孫文故居記念館を訪問し、「中国民主革命の父」とされる孫文の関係写真や書籍など展示されていたが、孫文の最大支援者であった長崎市出身の実業家「梅屋庄吉」関係の資料は写真2枚程度しか見当たらず、梅屋庄吉の功績が紹介されていぬ部分では少し残念であった。

また、夜景観光では、世界新三大夜景に選ばれている香港のビクトリアピークを視察した。ビクトリアピークは、標高約500mの展望台から眺める高層ビル群の夜景は「100万ドルの夜景」とも呼ばれ多くの観光客が訪れていた。稲佐山から眺める長崎の夜景は「生活の灯り」、香港の夜景は高層ビルの「ネオンの灯り」と思いつつ、「生活の灯り」の素晴らしさを再認識した。

中国中山市は、中国経済の発展に伴い幹線道路やインフラ整備が進み、新興産業（LED照明器具・家電製品など）、高層ビルやマンションが建ち並び飛躍的に近代化が進んでいると感じた。中国への公式訪問は今回で5回目、タイトなスケジュールではあったが、現地を訪れて自分の目で確認できたこと、直に話を聞くこと、そして食文化を含め体験・経験することで見聞を広めた。今後の議会活動に活かしていきたい。

